

本願寺 御歴代門主シリーズ

その六

本願寺第七代宗主

存如(ぞんによ)上人(一三九六〜一四五七年)

存如上人は応永三年(一三九六)に巧如上人のご長男として誕生され、永享八年(一四三六)、四十歳の時、父である巧如上人より譲状を受け、その四年後の永享十二年(一四四〇)、巧如上人ご往生の後を受け、四十四歳の時、本願寺第七代の法灯を継承されました。

存如上人は巧如上人の意思を継ぎ、譲り状を受けた翌々年には本願寺坊舎の整備に取りかかれました。しかし当時は本願寺教団はようやく北陸・近江地方へ進展し始めた頃で、また当年は全国的な飢饉に見舞われ、そのうえ存如上人が体調を崩されるなど、両堂の整備はきわめて困難で、なかなか予 存如上人はこの様な状況のもと、ようやく現在の東山・元大谷の地に「阿弥陀堂・御影堂」の両堂を完成されました。この御堂は、阿弥陀堂が三間四面、御影堂が五間四面という小さなものでありましたが、本願寺に両堂が整うのは初めて定通里には運ばれませんでした。



本願寺第七代宗主 存如(ぞんによ)上人

のことで、以来今日まで本願寺では両堂制が受け継がれることとなり、両堂の整備は本願寺史上大変意義のあることであります。

その他、存如上人は本願寺法灯の法嗣である若き運如上人の助力を得ながら、お聖教の書写下付、御影の裏書などを押しすすめられました。

さらに存如上人は、前々代宗主緯如上人の頃から始まり、父である巧如上人も教化に専念されていた北陸地方の教化活動に力を注がれ、やがて加賀国(現在の石川県南部)に本誓寺・専光寺・本泉寺・越前国(現在の福井県の嶺北地方)に西光寺などの有力寺院が新たに建立されるなど、北陸での教化は次代の運如上人が活躍される基盤となりました。

しかし、長禄元年(一四五七)六月十八日御年六十二歳にてご往生なさいました。

※参考文献 福岡光起著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

七月 十六日(火) 午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

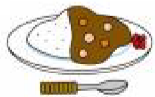
「夏の子ども会」(善教寺本堂)

八月 二日(金) 午前十時半〜午後三時

*仏教婦人会主催行事

仏さまの話を聞き、本堂でゲームをします。

昼食は、仏教婦人会役員さん手作りカレーを頂きます。



「孟蘭盆会納骨法要」(善教寺本堂)

八月 九日(金) 昼席：午後一時半〜

十日(土) 朝席：午前十時〜

昼席：午後一時半〜

講師 吉崎哲真師(佐伯区湯来町西法寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

ご縁に感謝